

専門職としての図書館司書の現状と課題

文化創造専攻 図書館情報学専修

22001ALM 山口 真奈

修士論文要旨

本研究では、専門職である図書館司書（以下、司書）の社会的地位が十分に認められておらず、その現状を調査し課題を明らかにすることを目的として、雇用状況と社会的認知の2つの側面から調査し、司書の現状と社会的地位および専門性向上のための課題を検討した。

第1章では、司書が名称独占資格であることから、司書がどのような専門職と位置付けられているのかを確認する。辞典における司書の定義、図書館法で定められた資格要件、日本図書館協会の提起などをもとに、専門職であるはずの司書の社会的地位が低いことを指摘した。

第2章では、これまでに行われてきた司書の専門性や社会的地位に関連する先行研究を取り上げる。まず、山口・菅野（2023）による司書を主人公とした漫画の内容分析の研究から、司書による監修が入った漫画作品であっても、司書の資格を有する者と有さない者との間での業務の混在がみられ、司書の専門性が認知されていないという指摘を紹介する。次に、女性の割合が高いとされる職業（女性職）についての雇用状況を明らかにした中馬（2021）の文献を挙げる。女性割合が75%以上の専門職は正規雇用割合が高くなるが、同じく専門職である司書・学芸員は、例外的に正規雇用割合・有効求人倍率ともに低い傾向にあるとした調査を紹介する。最後に、司書へのインタビュー調査を行った川崎（2010）、廣森（2012）の文献を取り上げ、司書の自立性が損なわれ専門性が発揮されていない現状があるとの指摘を紹介する。

第3章では、雇用状況と社会的認知の2つの側面から調査を行うにあたり、調査目的、調査手法を整理した。JLAの求人情報の調査では、2022年6月から2022年10月までに日本図書館協会ホームページの図書館職員求人情報に掲載された、求人100件分を収集した。子ども向け職業紹介本に関する調査では、2020年以降に出版された職業図鑑5冊を選出し、司書を紹介している部分の抽出を行った。インターネット上の職業紹介サイトの調査では、司書を含む多くの職業を網羅的に紹介しているサイトから5つのサイトを選出し、司書を紹介する項目を抽出した。

第4章では、各調査の結果である。JLAの求人情報の調査では、100件中35件が正規、65件が非正規という結果となり、給与の平均は非正規の方が36円高かった。子ども向け職業紹介本に関する調査では、5冊中4冊に司書の記述が確認されたが、司書の項目に割かれるスペース

の傾向から、図鑑制作側の司書の評価が低い可能性を示した。インターネット上の職業紹介サイトの調査では、職業紹介本とは異なり、司書の現状や職務内容について、より詳細に記述する傾向がみられた。

第5章では、各調査結果をもとに、司書の課題を考察した。雇用状況の調査からは、100件収集した時点での求人傾向を分析した。社会的認知の調査では、インターネットと図書との司書の描かれ方を比較した。また司書の掲載がなかった図鑑について、その要因を考察した。

最後に第6章では全体のまとめと、今後に残された課題について検討した。本研究に残された課題として、今回の調査には、司書養成のための教育の現状を含めることができなかったことを示した。